

TRYの必要ない社会を目指して

「TRY～外国人労働者・難民と共に歩む会」／

国際関係学科・学生 米村 向日葵、古池 詩、佐藤 麗香、第2部英米学科・学生 可久 英里奈



はじめに

「TRY～外国人労働者・難民と共に歩む会」は、外国人労働者やその家族、さらに日本に庇護を求めてきた難民の人たちに向き合い、主に、出入国在留管理庁(入管)の収容施設に収容されている方や、一時的に収容施設から放免されている方(仮放免者)を支援している。私たちは、「当事者の立場に立つ」ということを原則に、関連の問題に向き合っており、主な活動内容を列挙すると、大阪入管への面会、裁判傍聴、翻訳、学内外の問題普及活動などとなる。

日本における難民問題について

日本では、難民申請を行う外国人の数に対する難民認定される人数の比率は、補完的保護や人道的保護対象になった者を除くと、2%程度となる(法務省出入国在留管理庁 2024)。難民不認定で退去強制処分になった者は、母国に送還可能な時まで入管の外国人収容施設に収容される。TRYが支援する難民の方は、施設に収容されながら、若しくは、仮放免(収容から一時的に放免される)の状態で、難民申請をしている。

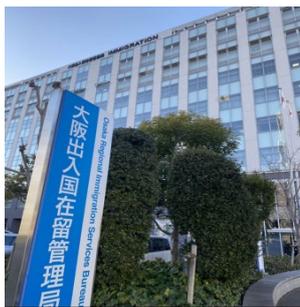


写真1: 大阪出入国在留管理局の建物 (TRYメンバー撮影)

また、オーバーステイなどの入管法違反が発覚し、収容される場合もある。収容後、自費出国する者もいるが、日本での在留を希望する方もいる。日本に長年築いた生活基盤がある、母国に帰ると身の危険があるなどの理由である。

入管収容所における人権侵害

2021年に名古屋入管で起こったスリランカ人女性の死亡事件(CALL4「ウイシュマさん名古屋入管死亡事件」)で明らかになったように、収容施設内では被収容者への人権侵害に値

するような様々な問題がある。実際に、面会を通して当事者の人たちからは「量が全く足りない」「人間が食べるものではない」といった食事に対する訴えや、杜撰な医療処置に対する不安や不満の声を何度も聞く(TRY入管面会報告「絶望の大阪入管～24人目の死者を出すつもりか?!」)。2017年には、ペルー人男性を14時間後ろ手錠で放置する事件、6人部屋に17人閉じ込めた事件(朝日新聞 2020)なども起こった(写真2)。



写真2: 大阪入管で起きた事件の裁判傍聴とその後の集会 (TRYメンバー撮影)

TRYでは、入管で起こった事件の裁判での必要な資料の翻訳や裁判傍聴を通して、当事者と共に闘っている。特に裁判を傍聴することは、支援者、特に学生、若者が関心を持っていることや、「社会がこの裁判を見ているぞ」という表明を裁判官に対して示すことであり、公正に裁判が進められているのか監視することにつながる。私たちは、入管という公的機関で上記のような事件が二度と起こらないように当事者とともに闘う。

面会活動

TRYは定期的には大阪入管での面会活動を行っている。面会を通して、被収容者の人たちから直接聞き取りを行い、入管内の状況(食事・医療の問題やその他の人権侵害が起きていないか)をこまめに把握すること、入管内の人権侵害を監視し、処遇改善のプレッシャーを与えることのほかに、被収容者への励ましや収容所内部の問題を社会に発信していくという意義がある。私たちは面会にとどまらず、面会記録を集約して入管に直接申し入れを行うなどして、現在も食事と医療の面で処遇改善を求め続けている。



写真3:一斉面会を行った様子(TRYメンバー撮影)

普及活動① 仮放免者の話を聞く会

仮放免者とは、「一時的に収容所の外に出ている人」を指す。仮放免者の方々は、在留資格(外国人が日本に滞在する間一定の活動を行うことや一定の身分や地位があることを認めるもの)が認められておらず(法務省出入国在留管理庁「仮放免制度について」)、半ば生存権が奪われた状態に置かれている。例えば、仕事に就くことができなかつたり、医療保険などを含めた社会保障を受けることができなかつたりする。私たち TRY は、仮放免者の方の在留資格獲得のために、仮放免期限延長の出頭同行や署名の活動を行っている。

また、今年(2024年)の春には、「仮放免者の話を聞く会」を行った。当事者の方の声と言葉で聞いた話は、非常に衝撃的で、「これは本当に日本で起こっていることなのか」と思うほど、入管内における人権侵害が深刻であることを思い知らされた。会で、入管内がいかに社会から隔離された閉ざされた空間であるかを実感した。それと同時に、仮放免者の方が話してくださったことを、学生である私たちが社会に向けて発信していくことの重要性を感じた。



写真4:仮放免者の話を聞く会(TRYメンバー撮影)

普及活動② 学園祭への出展

日本の入管収容所での人権侵害や難民認定率の低さ、仮放免者らの実態を、より多くの方に知ってもらうため、毎年本学の学園祭で展示を行っている。2024年度の学園祭では、112名の方々の TRY の展示への来場があった。難民の在留資格を求める署名は19筆集まり、真剣に展示を見ていただいた方が多かった印象を受けた。実際に面会に行つて分かつた入管内での人権侵害や大阪入管で起こつた事件、TRY が行つている普及活動などについて展示した。

学祭も含め様々な活動を行う中で気付いたことは、学生の持つ力と団結の力だ。情報発信力と行動力が高い学生は、面会や出頭同行、裁判傍聴などに参加することで、入管と社会に対して学生の関心があることを示し、プレッシャーをかけることができる。また、学生は、理論的学習と実践を反復しやすい環境にあるため、社会の「現実」を知り、背景にどのような社会構造があるのかを理解した時、難民問題に限らず、様々な社会問題を語る際に理論的に説得力を持って発信することができる。

二つ目に団結の力がある。言うまでもなく、学生だけでは社会を変えることはできない。労働者の方や市民の方と連帯して世論を形成し、社会全体が問題意識を持つてはじめて、現状を変える力になる。TRY が熱心に普及活動に取り組むのもそのためだ。今後とも、多くの方に入管の実態を知ってもらい、難民の方が難民として認めてもらえる社会を目指して普及活動にも取り組んでいく所存である。



写真5:外大祭での展示の様子
(TRYメンバー撮影)

おわりに

私たちが何気なく日本社会で生きている傍らで、入管内では外国人に対する人権侵害が常日頃から起きている。入管の実態は、外からは見えず内側から発信も行われないので、ブラックボックスという表現をすることもできる。このレポートを通して、より多くの方が入管問題に目を向けるきっかけになれば幸いだ。

主要な参照・参考文献

朝日新聞 2020 「手錠され 14 時間放置」 入管収容のペル一人男性提訴」2020年2月20日

CALL4 「ウイシュマさん名古屋入管死亡事件」

<https://www.call4.jp/info.php?type=items&id=I0000094>

TRY 入管面会報告 「絶望の大阪入管～24人目の死者を出すつもりか?!」

<http://blog.try-together.com/?eid=82>

法務省出入国在留管理庁 「我が国における難民庇護の状況等」

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001414757.pdf>

法務省出入国在留管理庁「仮放免制度について」

https://www.moj.go.jp/isa/08_00050.html